

建築研究開発コンソーシアム (CBRD)
分野・業種連携人材育成事業

研究開発人材育成プログラム（5日間コース）のご案内



インキュベーション委員会
人材育成プログラム小委員

現在、企業の技術開発力強化が重要課題として挙がっている中で、研究者・技術者の人材育成ニーズが高まっています。日経産業新聞の調査によれば、回答した企業の62%が研究者活性化の工夫として、「外部との人材交流」を挙げています。

建築研究開発コンソーシアム (CBRD) では「研究者・技術者の人材育成の場が欲しい」との会員の皆様のニーズにお応えして、会員企業・団体に共通する課題である将来を担う人材の育成、すなわち中堅研究者、技術者等に対する、研究への取組み姿勢、研究開発マネジメント、先輩の経験・ノウハウ等の伝承による人材育成の場として、「研究開発人材育成プログラム」を実施しています。

例年、6月頃から8月頃までと、9月頃から11月頃まで、2回にわたり定期的実施し、5日間コースとして2023年度は合計で28名の参加があり、受講者の累計数は297名となりました。

2024年度も実施を予定しておりますので、本案内をご高覧頂き、是非とも、ご参加を検討頂きますよう、ご案内申し上げます。

■ 研究開発人材育成プログラム（5日間コース）募集概要

- 目的：研究開発人材育成プログラム（5日間コース）は以下を目的に取り組みます。
- 1) 研究開発チームマネージャーへのステップアップに向けた知識の習得。
 - ・ 研究開発の進め方の習得：市場（マーケット）の把握、研究課題の創出、ロードマップ策定
 - ・ 社内外ネットワークの構築、組織運営と人材育成の方法論の習得
 - ・ アイデア創出の方法、グループワークの進め方の習得
 - 2) 様々な業種の研修参加者との交流による人脈形成の実践。
 - ・ 参加者を5人程度のチームに分け、毎回異なる参加者とグループワークを実施。
- 対象：正会員企業所属の研究開発に従事する職員、または技術関連業務に携わる職員。
- ・ マネージャーまたはマネージャークラスへのステップアップを目指されている方。
 - ・ 実施期間中を通して全てのプログラムに参加可能な方。
（やむを得ない場合は代理出席も可としています）
- 定員：15名（1回の研修プログラム）×2回 合計30名
- ・ 多くの会員企業に機会を広げるため、原則1法人につき1名の参加とします。
 - ・ 但し、定員に対し応募者数の余裕がある場合、第1・2回に各1名（2名/年度）の参加を可とします。
希望する場合は、各回の申請書をそれぞれ提出ください。
- 参加費：無料
- 募集時期：2024年3月11日（月）～4月26日（金）
- ・ 第2回は定員に対し、余裕がある場合には追加募集を行います。
- 日程・スケジュール：
- 第1回：2024年 6月7日、6月21日、 7月5日、 7月19日、 8月 2日
第2回：2024年 9月6日、9月20日、10月4日、10月18日、11月 1日
※全て金曜日
- ・ 時間：13:00～17:30（初日・最終日は、懇親会を予定しています）
- 開催形式：原則会場開催とします。
- ＊会場：晴海トリトンスクエア Z棟 4階 BHCJ講演室
- お問い合わせ先：
- 建築研究開発コンソーシアム事務局 人材育成プログラム担当
TEL：03-6219-7127 FAX：03-5560-8022
E-mail：human@conso.jp（人材育成プログラム）
- 秘密情報の扱いについて：
- 秘密保持について記載された資料等については、第三者に開示または漏洩してはなりません。

* 募集内容は、今後変更となる場合があります。

■ 研修カリキュラム

- 研修は、講義とグループワーク、研修レポートで構成されます。
- 講義は、企業の研究開発に携わってきたベテラン研究者・技術者による「私の研究開発履歴書」と、特別講義として、政策動向・MOT・マーケティング関連の各講義と、村上特別顧問による講演を予定しています。
- 各講義の内容・担当講師、グループワークおよび研修レポートの内容は以下の通りです。

■ 私の研究開発履歴書

* 講義内容は変更となる場合がございます。

○ 「研究開発 ～部分から全体へ～」

藤井 俊二氏 (Built Environment Research・代表、大成建設(株)OB)

1974年に東京大学工学系大学院修了、大成建設㈱入社。1982～84年にカリフォルニア大学バークレー校留学。2000年大成建設㈱技術研究所 建築研究部長、2004年に同社技術センター 副技術センター長、2012～14年技術センター 技師長。同社退社後、2015年にBuilt Environment Research社を設立。工学博士、1級建築士、技術士(応用理学部門)、コンクリート主任技師、CBRD学会会員。建築研究コンソーシアムのアイデアコンペで、第4回最優秀賞・第8回審査員特別賞・第10回10周年記念賞受賞・第15回優秀賞を受賞。平成29年度建築研究開発コンソーシアム功労賞受賞。

- | | | |
|-------|-----------------------|---|
| Part1 | どんな研究開発をやってきたか | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究開発 2. 研究開発マネージメント 3. 社会の課題への取り組み |
| Part2 | マネージャーになったとき知っておきたいこと | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題の創出 2. 人材マネージメント 3. 人脈形成 4. ビジョンの構築 |

○ 「住宅における省エネ開発を通して」

栗原 潤一氏 [ミサワホーム(株)]

1977年東海大学大学院工学研究科(建築学専攻)修了、1978年ミサワホーム(株)入社。同年(株)ミサワホーム総合研究所出向。主に、住宅の省エネルギー性、自然エネルギー利用の研究に従事。1993年環境エネルギー研究室室長、1996年「屋根一体型太陽光発電システム」、1998年「ゼロ・エネルギー住宅」開発。2004年博士号取得。2006年(株)ミサワホーム総合研究所取締役、2013年同取締役副所長、現在ミサワホーム(株)技術担当顧問。環境共生住宅推進協議会運営委員長。一級建築士。(公)空気調和・衛生工学会SHASE技術フェロー。

- | | |
|-------------|---|
| 1. 研究開発経緯 | <ol style="list-style-type: none"> (1) 省エネルギー・太陽エネルギー利用 (2) 自然エネルギー利用 (3) 太陽光発電利用の開発 |
| 2. 開発から商品化 | <ol style="list-style-type: none"> (1) ゼロエネルギー住宅(ZEH) (2) 微気候デザイン (3) 商品化 |
| 3. 外部団体への参画 | |

○「耐震・制振に関わるプチ開発例」

飯田 毅氏〔飯田技術士事務所、住友金属工業(株)OB、元大阪産業大学教授〕

1972年に京都大学大学院修了、住友金属工業株式会社入社。1996年に同社建設技術部長。
2000年に同社取締役。2002年大阪産業大学工学部教授。
2014年からNPO 関西インフラ維持管理・大学コンソーシアム副理事長、飯田技術士事務所所長。
工学博士、技術士（建設部門）

1. 研究・開発環境
2. 開発例等の小話
3. 研究開発を進める上で得た教訓：教訓1～7
4. 技術開発面で得た小事
5. 管理職として知っておきたい話
6. 研究開発チームマネージャーとしての10か条

○「建材開発・市場開発・基準開発」

安藤 達夫氏〔安藤F&M代表、三菱ケミカル(株)OB〕

1973年早稲田大学工学部建築学科卒、1976年東京大学大学院工学研究科修士課程修了。
1976年三菱化成工業(株)入社（商品研究所）。1990年米国三菱化学ヴァージニア事務所、1996年三菱化学(株)複合材事業部技術グループ部長。2001年三菱化学産資(株)商品研究所長、2004年海外貿易グループGM、2007年同社事業企画部部長。2008年三菱樹脂(株)理事、参与。2012年高機能成形材・部品関連分野事業企画部。2015年同社定年退職、東京大学学術支援職員/客員研究員。2021年AF&M（安藤F&M）設立。
1級建築士、危険物取扱者、第一種衛生管理者、通訳案内業（英語）、総合旅行業務取扱管理者他。
2016年建築研究開発コンソーシアム功労賞受賞。

1. 自己紹介（研究開発履歴）
2. 製造業での研究開発
3. 私の建築材料研究開発履歴
 - （1）金属/樹脂積層複材料（略称：ACM）
 - （2）アルミナ繊維（AF）
 - （3）建築分野向け炭素繊維（CF）
 - （4）基準開発と成果発信
4. 研究開発経験からの教訓

■特別講義

*講義内容は変更となる場合がございます。

○「技術マネジメント MOT の紹介～新規事業を成功させる日本的・実践的基礎と事例紹介～」

出川 通氏〔(株)テクノ・インテグレーション〕

1974年東北大学大学院修士課程修了（材料加工学専攻）。三井造船(株)入社。
1989-91年プリテッシュコロンビア大学(カナダ)客員研究員。2004年に(株)テクノ・インテグレーション設立、代表取締役就任。早稲田大学客員教授併任。2005年東北大学客員教授併任。その後島根大学、大分大学、香川大学客員教授他を併任。2007年以降、経産省、文科省、農水省各種委員およびJST、NEDO、産総研などの事業性評価委員を歴任。
工学博士。主な出版物に、「図解 実践MOT入門」「ロードマップの誤解をとく本」「図解 研究開発テーマの価値評価」「図解 開発・事業化プロジェクト・マネジメント入門」「図解 実践オープン・イノベーション入門」「図解 実践MOT マーケティング入門」「図解 実践ロードマップ入門」「理系人生 自己実現ロードマップ読本」「75歳まで働き愉しむ方法」ほか多数。

はじめに：自己紹介と企業における環境変化

1. イノベーション実現の日本の実践MOTとは
2. 自分たちの技術をどのように生かして守るか
3. 見えない市場（顧客価値）をどうつかむか
4. ロードマップとその活用を考える
5. オープン・イノベーション時代の発想・意識の転換
6. まとめ：今後のMOTの活用と展望

○「住宅分野の政策課題と対応の方向性」

東野 文人氏〔国土交通省 住宅局住宅企画官付 住宅活用調整官〕

1999年 京都大学工学部建築学科卒、2001年 京都大学大学院工学研究科建築学専攻修了。2001年 国土交通省入省、2007年 国土計画局総合計画課課長補佐、2010年 都市局市街地整備課課長補佐、2013年 総合政策局安心生活政策課課長補佐、2016年 都市局都市計画課企画専門官、2018年 内閣官房国土強靱化推進室参事官補佐、2021年 関東地方整備局建設部住宅調整官、2023年から現職。

1. 人口・世帯の変化
2. 住まいの選択～総論～
3. 住まいの選択～ファミリー編～
4. 住まいの選択～高齢者編～
5. 住まいの選択～新型コロナ感染症の影響～
6. 住宅ストックの現状
7. 住宅政策の変遷と新しい住生活基本計画

○【特別講義】観察から洞察へ～イノベーションを創出するために

富田 晃夫氏〔㈱ミサワホーム総合研究所〕

1990年 東洋大学卒 同年ミサワホーム㈱入社、2015年 ㈱ミサワホーム総合研究所 フューチャーデザインセンター 市場企画室 室長、2020年プライムライフテクノロジーズ㈱技術企画推進部 商品企画課 課長 都立大学及び立命館大学 客員研究員 東京都立大学システムデザイン研究科 博士後期課程在籍中

■委員及びアドバイザー（国事業プロジェクト等）：石川県SH、PV研究会委員、北海道長沼町まちづくりアドバイザー、住教育推進機構運営委員、国交省まちづくりプロデューサー 等

■受賞・著書：「ホーム commons 設計」開発・キッズデザイン賞受賞、「minilabo」コンセプト策定、商品化（ハイブリッドEdu）・テレワーク推進賞受賞。書籍「未来の選び方 Heart and Earth」監修、発行

1. 共感・洞察の育成…生活者の観察と共感
 - ・デザイン思考の共感フェーズの紹介 ・観察技術を用いた生活者のニーズと挑戦の理解（事例）
 - ・洞察からの学び ・観察データの分析と洞察の抽出方法
2. アイデア創出と評価…アイデアの発散と収束
 - ・発散会議と収束会議
 - ・ブレインストーミングとアイデアの視覚化 ・アイデアの絞り込み（KJ、フレーム）
 - ・エクスペリエンスデザイン（体験価値） ・プロトタイピングとフィードバック
3. 伝達・実装の技術…伝える技術の基礎
 - ・研究職、技術職にありがちな専門バカにならない
 - ・レイヤーに合わせた伝達方法（3つのパラグラフ、ゴールデンサークル）
 - ・ストーリーテリングを用いたアイデアの魅力的な伝達
 - ・ステーキホルダーの巻き込み ・ステーキホルダーを理解し、巻き込むための戦略

○【特別顧問講義】「建築と環境」

村上 周三氏（東京大学名誉教授 CBRD特別顧問）

1967年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 修士課程修了。1985年東京大学生産研究所教授。

1999年デンマーク工科大学（DTU）客員教授。2001年慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授、2008年独立行政法人 建築研究所（旧建設省建築研究所）理事長、2003年から一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構（IBEC）理事長。

工学博士（東京大学）。日本建築学会会長、国土交通省中央建築士審査会会長、国土交通省社会資本整備審議会環境部会部会長、建築・住宅国際機構会長、生産技術研究所顧問研究員、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別研究教授を歴任。2014年日本建築学会賞大賞受賞。研究分野は、計算流体力学、人体周辺環境、建築・都市環境工学、地球環境工学、サステナブル建築。2023年春の叙勲にて瑞宝重光章受章。2008年6月～2019年まで、CBRD会長。2019年6月からCBRD特別顧問。

1. 環境と文明
 - ①世界の主要文明 ②環境と人口 ③環境と農業 ④環境と文化 ⑤環境と思想、宗教 ⑥環境問題と文明のパラダイムシフト
2. バナキュラー建築
 - ①寒冷地の住居「イグルー」②高温多湿気候地域の住居「高床式住居」
 - ③高温乾燥気候地域の住居「採風塔を持つ住居」④乾燥地域の住居「洞窟型住居」
 - ⑤高温多湿気候地域の住居「水上住居」
- 3 住宅と健康
 - ①地域、季節と冬季の死亡率 ②健康住宅に関する世界/日本の動向 ③室温と健康 ④住宅断熱の投資回収年数

■グループワーク

- グループワークの目的は、アイデア創出の方法とグループワークの進め方の習得です。
- 各回の「私の研究開発履歴書」講義の後、講師が講義内容に関連したテーマを提示、そのテーマについて、グループで議論します。
- 「私の研究開発履歴書」講義の後、グループワークの進め方を説明します。
- グループワーク時間の最後に、毎回グループ毎に議論の内容を発表し、他のグループとの質疑応答および、講師やインキュベーション委員会委員からの助言・コメント、意見交換を行ないます。

■研修レポート

- 最終日に受講者全員の受講者研修レポート発表会を行ないます。
- 5日間の研修受講による、研究開発マネジメントの気づき、そしてチームマネージャーとしてやるべきことや意気込みについて発表します。
- 毎回の講義・グループワークでの気づきをもとに、市場の把握、研究課題の創出、技術開発ロードマップ、社内外ネットワーク、組織運営と人材育成を中心として、チームマネージャーとしてやるべきことや意気込みを各自レポートに纏め、発表会で発表して頂きます。
- 最終レポートとは別に、各日のカリキュラム終了後、個別カリキュラムに関するアンケートを実施します。必ず提出して下さい。

■ 研修スケジュール（時間割）（2024年度開催予定内容）

【第1回】

*プログラムは、諸事情により変更になる場合がございます。

6月7日 (金)	13:00-14:10	14:20-15:20	15:25-16:40	16:40-17:30
	<p>■開会挨拶 インキュベーション委員長 (プログラム 説明)</p> <p>■受講者自己紹介</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>藤井 俊二氏 〔Built Environment Research・大成建設 OB〕</p>	<p>■グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師課題説明 (同 左) 進め方説明 (電子ボード MIRO説明) <p>インキュベーション委員 ○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
6月21日 (金)	13:00-15:00	15:05-16:05	16:05-17:10	17:10-17:30
	<p>■特別講義 (環境と建築)</p> <p>村上 周三氏 〔東京大学名誉教授・ CBRD特別顧問〕</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>栗原 潤一氏 〔ミサワホーム〕</p>	<p>■グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師課題説明 (同 左) <p>○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
7月5日 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-16:50	16:50-17:30
	<p>■特別講義 技術マネジメント MOTの紹介</p> <p>出川 通氏 〔テクノ・インテグ レーション〕</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>飯田 毅氏 〔飯田技術士事務所・ 住友金属工業OB・元 大阪産業大学教授〕</p>	<p>■グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師課題説明 (同 左) <p>○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
7月19日 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-16:50	16:50-17:30
	<p>■特別講義 (観察から洞察へ ～イノベーションを 創出するために)</p> <p>富田 晃夫氏 〔㈱ミサワホーム 総合研究所〕</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>安藤 達夫氏 〔安藤F&M代表・三菱 ケミカルOB〕</p>	<p>■グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師課題説明 (同 左) <p>○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
8月2日 (金)	13:00-14:30	14:40-16:50		17:00-18:00
	<p>特別講義 (住宅分野の政策課題 と対応の方向性)</p> <p>東野 文人氏 〔国土交通省〕</p>	<p>■受講者研修レポート発表</p> <p>■プログラム成果講評 インキュベーション委員会 人材育成プログラム小委員会主査</p>		<p>■懇親会 (相互理解 ／情報交換)</p>

【第2回】

*プログラムは、諸事情により変更になる場合がございます。

9月6日 (金)	13:00-14:10	14:20-15:20	15:25-16:40	16:40-17:30
	<p>■開会挨拶 イキュバ-ション委員長 (プログラム 説明)</p> <p>■受講者自己紹介</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>藤井 俊二氏 〔Built Environment Research・大成建設 OB〕</p>	<p>■グループワーク</p> <p>・講師課題説明 (同 左)</p> <p>・進め方説明 (電子ボード MIRO説明)</p> <p>イキュバ-ション委員</p> <p>○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
9月20日 (金)	13:00-15:00	15:05-16:05	16:05-17:10	17:10-17:30
	<p>■特別講義 (環境と建築)</p> <p>村上 周三氏 〔東京大学名誉教授・ CBRD特別顧問〕</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>栗原 潤一氏 〔ミサワホーム〕</p>	<p>■グループワーク</p> <p>・講師課題説明 (同 左)</p> <p>○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
10月4日 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-16:50	16:50-17:30
	<p>■特別講義 技術マネジメント MOTの紹介</p> <p>出川 通氏 〔テクノ・インテグ レーション〕</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>飯田 毅氏 〔飯田技術士事務所・ 住友金属工業OB・元 大阪産業大学教授〕</p>	<p>■グループワーク</p> <p>・講師課題説明 (同 左)</p> <p>○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
10月18 日 (金)	13:00-14:30	14:40-15:40	15:45-16:50	16:50-17:30
	<p>■特別講義 (観察から洞察へ ～イノベーションを 創出するために)</p> <p>富田 晃夫氏 〔㈱ミサワホーム 総合研究所〕</p>	<p>■私の研究開発 履歴書</p> <p>安藤 達夫氏 〔安藤F&M代表・三菱 ケミカルOB〕</p>	<p>■グループワーク</p> <p>・講師課題説明 (同 左)</p> <p>○課題討議・意見 等取りまとめ</p>	<p>■各グループ 発表 (含:受講者相互 質疑応答)</p> <p>■講師講評 (同 左)</p>
11月1日 (金)	13:00-14:30	14:40-16:50		17:00-18:00
	<p>特別講義 (住宅分野の政策課題 と対応の方向性)</p> <p>東野 文人氏 〔国土交通省〕</p>	<p>■受講者研修レポート発表</p> <p>■プログラム成果講評 イノベーション委員会 人材育成プログラム小委員会主査</p>		<p>■懇親会 (相互理解 ／情報交換)</p>

■（参考）2023年度の実績

■受講者数・構成

業種区分	第1回	第2回
総合建設業	6名	5名
ハウスメーカー	5名	4名
建材・設備メーカー	4名	2名
公的機関	0名	2名
合計	15名	13名

■研修状況と受講者の声（アンケート結果）

◇参加者のニーズとの合致について

- ・ 受講者からのアンケート結果より、受講者から高い評価を受けています。

	あっていた	どちらでもない	あっていなかった	合計
第1回	13名	2名	0名	15名
第2回	12名	1名	0名	13名

*以下は2019-23年度の開催より抜粋。なお、2020-22年度は新型コロナウイルス状況により、以前と異なるオンライン・ハイブリッド形式で開催。

◇1チーム4～5名の3チーム構成での研修について

- ・ 他社や異業種（住宅やメーカー）の人と議論できる機会は減多になく、多様な意見を知ることができて良かった。
- ・ 人数構成も良かったと思います。4～5名は全員が会話に参加できてちょうどいい。
- ・ 業種、職種が異なる方とお話できて有意義で、全員の考えを聞くことができて良かった。



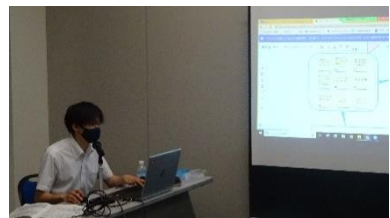
◇グループワークでの活発な議論について

- ・ グループワークが参加者との交流の場となった。他社のリーダー、サブリーダークラスの方の考え方や意見を直に聞いて、非常に貴重な経験となった。
- ・ ディスカッションする時間が十分にとられており、異業種の方々と深く話をできるいい機会になりました。



◇各チームからの討議結果の発表、質疑について

- ・ 今回、司会と発表を担当しましたが、メンバーの意見を短時間に整理して、発表するという一連のプロセスを経験できたことは今後の業務に活用できると考えます。
- ・ 他社の方とのグループワークは、新たな発見や、モチベーション向上、コミュニケーション（含：議論の進め方）能力の向上に繋がると思いますので、良かったと思います。



◇オンライン・ハイブリッド形式で開催について

- ・ ハイブリッド開催でZoomとMiroを用い、とても効果的でした。次年度以降にリアル開催になった時も活用できる方法だと感じます。

Zoom：ビデオ ミーティング システム

Miro：ビジュアルコラボレーション プラットフォーム



◇講師の体験談を通じた講義「私の研究開発履歴書」について

- 研究開発における部下の育成・評価、マネージャー・専門職の考え方について、実体験を踏まえた現実的な対処手段を伺うことができた。
- 建前だけではなく本音でお話頂き、受講者と近い感覚でお話頂いたのが良かったです。特に、質疑の際の回答は、元上司の方との人間関係のお話もあり、講義内でお話頂いても面白い内容だと思いました。
- ゼネコン、ハウスメーカー、土木系建材メーカーに続き、建築系建材メーカーの方が講師であり、バランスよく考えられたカリキュラムだったと思います。



◇村上周三 CBRD 特別顧問による特別講義について

- 普段、考えの及ばない哲学的な内容であり非常に新鮮で興味深い内容であった。また、難しい内容でありながら話しの流れが明確で理解し易かった。自分が如何に狭い範囲で思考しているのか気付かされた。
- 今後の思考の一助としたいと思う。
- 有病割合改善という考え方など、今までにない考え方を講義して頂き大変参考になりました。バナキュラー建築の事例を見せて頂き、建物のあり方を再認識できました。



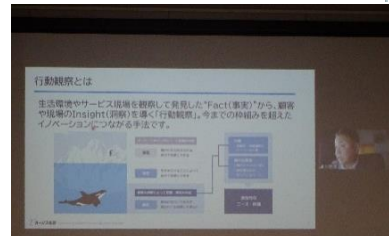
◇「技術マネジメント (MOT)」に関する講義について

- 技術マネジメントMOTに接したのは初めてだったが、成功例・失敗例などの経験談を交えて頂いたので身近に感じる内容であり、非常に分かり易かった。
- MOTでは研究→開発→事業化の展開と売上高の関係やプロダクトライフサイクルを示して頂けて参考になった。



◇「マーケティング (行動観察)」に関する講義について

- 「今まで「行動観察」に接したことがありませんでしたが、「行動観察」の基礎的内容を教えて頂き、今までは違う着眼で観測する方法を会得できた点が良かったです。
- 行動観察より潜在的なニーズをとらえイノベーションを考える講義は興味深いものでした



◇住宅関連政策に関する講義について

- 住宅に関してのこれからの国の政策を直接伺うことができ、今後のテーマ選定に非常に役に立ちました。
- 将来的に必ず必要となる情報でありながら、あまり詳しく知る機会が無かった住宅を取り巻く様々な情報・データの解説は大変勉強になりました。



◇研修レポート発表会での各人からの成果発表について

- 折角の研修内容について共感し合えた事を思い出して、現状業務に生かす糧にしたいと切に願います。5日間とは言え貴重な他業種の方々と一緒に研修を共にした仲間が作成した“研修レポート発表資料”は、思い出しのきっかけや参考にさせていただけると思います。
- 最終日の「受講者研修レポート発表会」は自分なりの気づき、メッセージを記録に残すことが出来、必要。他の受講者のレポートも興味を持って聴き、参考になった。



◇研修全体について

- 会社から一歩はなれて、いろいろな人と交流できたことは非常に有意義と感じました。今後も、内容をブラッシュアップしながら継続して実施いただくと、私に続く後輩も助かると思いますので宜しくお願いいたします。ありがとうございました。
- 今回の研修ではこれまでになかった異業種の方と交流ができたことで、色々な気づきを得られ、大きな収穫となりました。今後は、最終回で自分が発表したことを実践できるように努めていきたいと思えます。

◇5日間（各半日）の期間・スケジュールについて

- 4人の履歴書の講師は、どの方も省けない。一日に一人がベスト。
- 講義を受けて2週間、聴いた内容を実践したり出来ることが良い。そして、それが4回経験出来ることも、反復の意味から効果を発揮し易い。
- 人脈形成からも5回ほど顔を合わすことは必要。5回でも全員と交流し切れなかったので、これ以上短縮することは好ましくない。
- 午後からの実施なので遠方からの移動が容易。前泊の必要がない。



建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204

東京都中央区晴海1-8-12 晴海トリトンスクエア オフィスタワー Z棟 4階

TEL : 03-6219-7127 FAX : 03-5560-8022

E-mail : conso@conso.jp (代表), human@conso.jp (人材育成プログラム)

Home Page : <http://www.conso.jp/>

(参考) 2014年6月26日(木) 建設通信新聞記事

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

建設通信新聞

Constructions, Engineering & News (Daily)

2014年(平成26年)6月26日(木曜日) (第三種郵便物認可)

建設業界特化型のブログポータル
建設総合ブログ
Construction Cyber Community
http://www.kenblog.jp/

デザイン2014 建築記事へのご要望やご意見をお寄せ下さい。 kenchiku@kensetsunews.com

Architecture Front



建築研究開発コンソーシアム 村上 周三 会長に聞く

「成熟社会となり、これまで以上に個人の能力が問われるようになった。人材教育の重要性が高まっている。その語るには、建築研究開発コンソーシアムの村上周三会長。新築中心の市場からメンテナンス中心の市場への移行が指摘される建築業界。施主のニーズはどう変わり、それに対応するためになにが必要なのか。変化する時代において求められる人材観を聞いた。

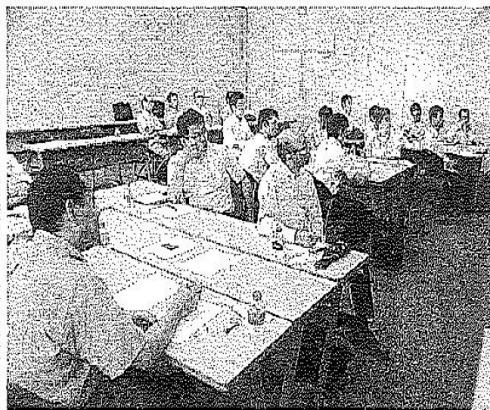
建築人材教育

建築研究開発コンソーシアムは19日、東京都中央区のトリトンスクエアで第1回研究開発人材育成プログラムを開いた。ゼネコン、ハウスメーカー、設備工事業者、公的機関の技術研究員が参加し、チームマネジャーへのステップアップを目的とした講義とグループワークを実施した。「大切なのは気付きを得ること」と、特別講義を終えた村上会長は力を込める。「建築と環境」をテーマとしたこの日の特別講義では、日本の環境問題の原因には発展途上国の人口爆発と先進国のエネルギー大量消費が通底して

いると分析した上で、バナキユラー建築の環境性や現代の住宅における環境問題などについて紹介した。期待するのは、異業種間の交流で生まれる分野横断的な人材育成だ。「細々とした専門的な知識を身に着けるよりも、異業種が集まって議論することで『建築のあり方』について柔軟な思考を身に着けてほしい」と述べ、専門性から柔軟性をより重視した人材教育システムへ移行した背景には、日本が成熟社会を迎え「良い意味で技術への要求が高く、厳しくなっている」現状がある。国内の建築が量的に充足するのに伴い、建築に求められる機能として地球環境、ネットワーク社会、少子高齢化といった問題への対応も求められるようになった。市場のニーズが刻

提案する能力が問われる

異業種交流で分野横断的な人材を



第1回研究開発人材育成プログラムにはゼネコン、ハウスメーカー、設備工事業者、公的機関の技術研究員が参加。市場の変化に対応したチームマネジャーとしての能力研さんに励んだ

一刻と変化した流動化を続ける今だからこそ、技術者には時代の変化に柔軟に対応し「向かすべき生活についてビジョンを示す必要がある」とも。特に技術者個人の能力が問われるのが住宅分野だといふ。今後、人口減少と住宅供給過多によりメンテナンス市場が中心となった際には「居住環境を重視する新しい文化、価値観が生まれる」と指摘する。注目するのは若者世代だ。衣服、食事、自動車などへの投資を避ける傾向がある一方で、個人生活を重視する文化を持っており「若者世代に余裕が出てくれば良質な住まいや良好な建築環境を確保するための要求条件は増えるはず」と期待を込める。建築の実質的な価値が求められるようになったら、技術者に求められる能力も変化する。村上会長は、今まで建築は量を提供すればよかったが、日本は豊かになり、若い人のセンスも良くなった。建築が余り、超高齢化時代を迎える現在においては、これまで以上に技術者が世の中の変化をとらえ、より良い生活を提案する能力が求められる」と強調した。

気付きを得ることが大切